

貝類の収集を約60年にわたって続けている元高校教諭の男性による「香川県に生息する陸産・淡水産の貝殻コレクション展」が観音寺市大野原町の大野原中央公民館で開かれている。陸産、淡水産の貝類のうち県内で確認されている203種全てを一堂に紹介し、来場者の関心を引いている。

出展しているのは矢野重文さん(75)＝同市大野原町＝。対象を陸産・淡水産貝類に限定し、個人としては初めて標本の展示を企画した。ナメクジ類は写真のみを紹介している。

展示している貝類のうち9割以上は自ら採集したもので、希少種も含む。専門家以外にも分かりやすいように、ふたを持つ巻き貝、キセルガ

観音寺の元高校教諭展示

60年収集 貝類ずらり



展示している貝類について来場者に解説する矢野さん＝観音寺市大野原町、大野原中央公民館

イ類、マイマイ類などに分類して陳列。特徴的な個体には拡大した標本の写真とともに、矢野さんの調査や他の研究者の記録に基づく県内での個体の分布図を掲示している。1、2ミリのほどの微小種もあるため、拡大鏡も用意した。矢野さんは地理の教諭として坂出高、丸亀高などに勤務。大学浪人中から貝類の収集に取り組み、コレクションは海産貝類4千種程度、陸産・淡水産800種程度に上る。まんのう町だけに生息する陸貝を1984年に採集し、87年に「ヤノムシオイガイ」として発見者の名前が和名、学名ともに盛り込まれ新種記載されたことでも知られる。

展示は30日まで。土日休館。開催時間は午前9時～午後5時(30日は正午)。